

平成25年10月16日

魚沼市議会議長 浅井 守雄 様

産業建設委員会
委員長 本 田 篤

産業建設委員会調査報告書

本委員会は、所管事務について下記のとおり調査したので、魚沼市議会会議規則第110条の規定により報告します。

記

- 1 調査事件名 (1) 現地調査
(2) 現地調査の総括
(3) スキー場の再編について
(4) その他

- 2 調査の経過 10月16日に委員会を開催し、所管事務について調査を行った。
有機センター、上原工業団地、ホリカフーズ(株)水の郷工業団地、小出南部工業団地を現地調査し、調査後総括を行った。
スキー場の再編では、今までの経過説明がなされ質疑を行った。
その他では、地域ブランド調査について報告がなされた。

産業建設委員会会議録

1 調査事件

(1) 現地調査

(有機センター、上原工業団地、ホリカフーズ(株)水の郷工場、小出南部工業団地)

(2) 現地調査の総括

(3) スキー場の再編について

(4) その他

2 日 時 平成25年10月16日 午後1時

3 場 所 広神庁舎 301会議室

4 出席委員 富永三千敏、佐藤敏雄、岡部計夫、本田 篤、森山英敏

5 欠席委員 佐藤 肇

6 説明員 大平市長、青木商工観光課長、青山北部振興事務所長
星野農政室長、桜井観光振興室長

7 書 記 小幡議会事務局長、和田主任

8 経 過

開 会 (12:56)

本田委員長 定足数に達していますので、ただいまから産業建設委員会を開会いたします。
佐藤肇委員から欠席の届けがありましたので報告します。台風26号の被害が大変大きいとい
うことで、伊豆大島で7名の方が亡くなりましたし、行方不明も50人というニュースが
入っております。被災された皆様のご冥福とお見舞いを申し上げます。

(1) 現地調査

本田委員長 日程第1、現地調査を議題とします。別紙、行程表のとおり、有機センターほ
か4施設をこれより順次視察をいたします。ここでしばらくの間休憩します。

休 憩 (12:57)

休憩中に現地調査

再 開 (16:06)

本田委員長 休憩を解き会議を再開します。

(2) 現地調査の総括

本田委員長 日程第2、現地調査の総括を議題とします。総括並びにご意見はありませんか。

森山委員 有機センターの関係ですが、いろいろ努力はなされていると思うのですが、赤字が増えているということで心配しています。5年をめぐりに民営化という話もあったと思うのですが、その辺の進捗状況について説明願います。

星野農政室長 当初、5年で経常収支が平準化したところで民間移行ということも視野に入れながら進んでいくということで議会報告等もあったわけです。その中で、北魚沼農協と協議を進めているわけですが、単体では民間移行が難しいというようなことでありまして、第3セクターというべきか、酪農関係、それから農業公社等、今は魚沼農耕舎という名称であります。人員を派遣していただいたり、それから、堆肥散布を行いたいということで協力していただいていますので、そういった団体も含めた中で民間移行ということで検討を進めたいと考えております。また、北魚沼農協との協議も進めてまいりたいと考えております。

森山委員 赤字幅が増えている要因の一つに修繕費の増加がありましたが、今後もこれは増加傾向と見通されるのか、この辺がピークで、いろいろあったので25年からはもう少し支出は下がるという見込みなのでしょうか。

星野農政室長 今ほどの修繕費の関係ですが、稼働から5年目を迎え、堆肥散布機の修繕、それから、車両等の修繕に経費が多くかかったのが今回修繕費が多くかかった要因です。こちらにつきましても、使用頻度がかかなり高いということであり、ある程度の修繕費が経常的にかかるものとは思いますが、昨年については、散布機が壊れたということで修繕費が想定した以上にかかったというような状況です。

富永委員 有機センターの概要の資料中に計画に対する達成状況とありますが、当初の目標の数字がバイオマスの受け入れが8,200トンくらい、生産される堆肥が3,800トンということで、これは材料に対して50%弱、46%くらいの製品になります。過去も計算すると大体この数字なのですが、例年1,600万円から1,800万円くらいの赤字ですが、当初計画の目標であるこれを生産すると大体とんとんになるのでしょうか。

星野農政室長 堆肥生産量については、堆肥になると重量自体は軽くなります。当初は、この8,274トンの受け入れの中で、3,813トンの生産をするということで収入、支出がゼロになるというような計画でこの施設の建設に進んだということでもあります。

本田委員長 有機センターについてほかにありませんか。(なし) それではほかの項目についてお願いします。

岡部委員 水の郷工業団地は今2社しか出ていなくて、かなりの部分が空き地になっていますが、上原の工業団地に企業が進出したという話もありましたが、ここは造成していないところに新たに出るということで造成したという経緯もありますが、ここと水の郷とどのくらいタイムラグがあるのでしょうか。

青木商工観光課長 半年くらいのタイムラグがあったように記憶しております。その企業が急ぐということでした。水の郷は、きょう見ていただきましたが、1ヘクタール未満だと

なかなか使い勝手が悪い用地ですので、その企業は、そんなに広い用地ではなかったのに、上原の工業団地を付け足すということで立地いただいた経緯があります。

岡部委員 今後のことですが、それぞれ旧町村が工業団地を造成しているのですが、今魚沼市としてあれだけの面積を持っています。きょうの説明ではできるだけ大きな会社から来てもらってということで、切り売りはしないんだということでしたが、条件かなって進出企業があればいいのですが、それが見通しが立たないうちに何社か、切り売りしてほしいという話があったときはどのように対応されるのでしょうか。

青木商工観光課長 現時点ですと、小さく切っていくと、道路が当然ついてまわりますので、今のところその道路を回すというと、将来にわたって市が管理しなければならないということで、5,000平米くらいの用地の案件につきましては、現状の市内にある空き工場用地などを先に提案し、交渉していくといった現状です。

岡部委員 今、水の郷工業団地以外で、市で工業団地にしているところのPRはしているのでしょうか。

青木商工観光課長 工業団地としては、空いている工業団地は柿ノ木くらいです。あとは、ほとんど工業団地の体をなしていない、広瀬地区、今セブンイレブンができましたが、その裏でほとんど使う用地がないといったところです。空き工場のリストは持っていますし、今は中断されていますが、アルプス電気も県のホームページにアップされて公表しています。

岡部委員 あそこを切り売りしたくないというのもわかるのですが、魚沼市に規模が小さくても出てきたいというところがあった場合は、どのように対応されるのでしょうか。

青木商工観光課長 それが絶対条件ということであれば、逃がす手はないので対応する考えはあります。

岡部委員 進出企業によっては絶対やらしてほしいということであれば、切り売りもやぶさかでないという考え方でよろしいでしょうか。

青木商工観光課長 そのとおりです。

佐藤（敏）委員 ホリカフーズのレスキューフーズは、品物も良かったし中身も良かったのですが、優良企業ですので、地元の自治体でも是非活用してもらうように一緒にPR活動をやって、より雇用がくるような宣伝活動をお願いしたいと思います。

青木商工観光課長 私も全くそのとおりだと思っております。新潟県の東京の出先などは既にホリカフーズのレスキューフーズが装備されております。今は無理して帰宅しない、とどまるという方が災害に対する管理になっています。とどまるということは食べ物がいるということであります。県の出先も用意されていますし、話のあった文京区、足立区からも用意いただいております。おひざ元が用意がないというのは違和感が残りますので、私からも上に提言させていただきたいと思っております。

富永委員 きょうの現地調査ですが、もう少し時間があつた方が良かったかなと思います。

本田委員長 少し急ぎ足であったこと、私も初めての視察でありましたので反省点とさせていただきます。また、こういった視察、勉強等を開かせていただきたいと思います。ほかにありませんか。（なし）さまざまな課題もあると思いますが今後の委員会活動の糧にさせていただくということで本件は以上とさせていただきます。

(2) スキー場の再編について

本田委員長 執行部からその後の経過報告を求めます。

大平市長 経過報告をさせていただく前に、この度、臨時議会を開催するという運びになりました。この9月定例議会に準備できなかったこと、お忙しい中、臨時議会を開催するというので、大変皆さんにはご迷惑をおかけしましたことをお詫びしたいと思います。間近になっています民営化に向けての作業は進めているところでありますが、この臨時議会で、それぞれ皆さんからご審議いただいて議決をいただかなければならないこともありますので、これからこのことについて説明をさせていただきます。

青木商工観光課長 担当課長として、このような不手際で本当に申し訳なく思っておりここにお詫び申し上げます。経過報告をさせていただきます。一番態度が不明確でありました、須原スキー場につきましては、10月11日に役員会が開催されましてそこで意志決定がなされ、民営化を受けて経営するという方針が固まりました。ここが最後で、ほかの皆さんは、経過としましては、会期中の産業建設委員会でご説明申し上げたとおり、今までの方針でスキー場と交渉をしていくということで、会期中ではありましたが、10月2日に各スキー場の皆さんからお越しいただきました。その中身としましては、産業建設委員会で私どもがお話したこと、それから、24年度会計の決算審査における質疑の中で私どもが回答した部分、再度質問を受けて回答した部分の経過なども説明させていただき、これが最終判断だということでお話申し上げて最後の11日、須原スキー場が経営を確認できたという経緯になっております。今ほど市長から話がありましたが、この度、臨時議会をお願いさせていただく中で、魚沼市スキー場条例を廃止する条例の制定を提案し、議決をお願いしたいということ、市の財産を貸与で民が経営するのですから、それを貸してもいいのですかということで、索道施設等の無償貸与について議会の議決を求める、この2件になります。後段の無償貸与につきましては、各スキー場1件ごとになりますので、冒頭申し上げた、スキー場条例を廃止するというのが1件、索道施設の無償貸与に関するところが、各スキー場1件ずつ、計6件ということに今のところなっています。加えて、産業建設委員会、それから、今までの経緯の中で25年度予算については、議会の中で慎重審議いただいて、今まで指定管理から民営化ということで動いてきたところですが、委員会、それから各スキー場からの聞き取りの中で、設備の整備をしてもらっても、運営経費がどこも赤字のままだという指摘もありまして、そこをどうするんだというようなご指摘もありました。今の考え方として、月末の臨時会をいただけるのであれば、スキー場へ青少年への誘導ということで新たな助成、補助金の補正予算を考えております。(資料「スキー場無償貸与施設概要」について説明)

本田委員長 質疑はありませんか。

森山委員 主な貸与施設の一覧がありますが、貸与するから全部新しく受けるところが全部動かすということでなくお任せするというので、どこまで使うかは経営をまかった方の判断になるというようなとらえ方なのでしょうか。それとも全部使う計画で全部貸しますということになったのか、その辺お聞きしたいのですが。

青木商工観光課長 ここで書き出してあるのは現有の施設だということで、今森山委員がおっしゃったように、これを全部動かすと、動かせば動かすだけ経費がかかりますので、ど

れとどれを縮小した方がというのは、なかなかこちらからは言えませんが、規模縮小することが経費の縮減につながるのではないかというお話はさせていただいております。

森山委員　これを使う、使わないは、受けたところの判断にゆだねるということで理解していいのでしょうか。

青木商工観光課長　経営判断に任せたいと思います。

森山委員　魚沼市スキー場条例を廃止する条例の制定について議会の議決を求めるということですが、条例を11月1日に廃止するという形になったときに、後戻りのできない話になるというところがあるのですが、それは、そういうことで執行部としては断固進めるといふ決意なののでしょうか。

本田委員長　しばらくの間休憩いたします。

休　　憩（16：33）

休憩中に懇談的に意見交換

再　　開（16：34）

本田委員長　休憩を解き会議を再開します。

青木商工観光課長　条例の部分ですが、今、スキー場条例がありますが、その条例の中でスキー場が位置づけられていますので、どこにどう書いてあるということではないですが、スキー場が魚沼市の行政財産だという判断がなされます。行政財産を民に貸し出すことは法律で禁じられている中の1つになっていますので普通財産化しなければならない。普通財産化するにはどうすればいいかということ、条例の中におかなければいい。ただし、普通財産であっても、魚沼市の財産であることには何ら変わりはないということをご確認いただきたいと思います。

森山委員　そうすると、ある意味で、事務処理の関係でそうしておかないとうまくいかないということよろしいでしょうか。

青木商工観光課長　そうご理解いただきたいと思います。

本田委員長　しばらくの間休憩いたします。

休　　憩（16：36）

休憩中に懇談的に意見交換

再　　開（16：38）

本田委員長　休憩を解き会議を再開します。

岡部委員　平成25年度実行するにあたり、11月1日から民営化をする中で、持っているものについて全部修理をしてということでしたが、修理は全部終わったのでしょうか。

青木商工観光課長　今まで議会へ報告させてもらった中では、指定管理から民営化に移るに

は、各スキー場の意志が確認できた段階でという約束をしていましたので、それが遅れた関係で全部終わってはいません。

岡部委員　今の説明の中で今後新しく営業する方が、その運営計画の中でこれを使う、これは使わないということがはっきりした段階で修理をするとか、しないとかというのを決めていくのでしょうか。

青木商工観光課長　25シーズン、この冬のシーズンにつきましては、25年の予算のときに提案した現状の施設の中での修理ということで、1億8,600万円を認めていただいたことになっていますので、現時点ではそれを加味しておりません。

岡部委員　細かい、小さい、ここには載っていないものについてはそれはどういう取扱いになるのでしょうか。

青木商工観光課長　ゾーンの的に見て、そこの付帯施設という考え方で無償貸与に含まれると判断しております。

岡部委員　これからそれぞれの法人がこれから運営していく中で、のちのち貸与を受けた中でこれを維持できない、やめるという形になったときの財産の処分、市がこのままでいけば財産の所有がありますが、そのあとの対応は、また新たな人がいればそちらに対応してほしいという考え方なののでしょうか。

青木商工観光課長　契約をしようとしている団体がどうも難しいという判断で撤退されたときは、岡部委員が言われたとおり、次にすぐ対応できる団体がない、1年、2年という単位の中で、次の受け皿がない場合や、将来的に見て危険だという部分があった場合は、あくまでも市の財産を貸与するのですから、それがもとに戻る、市が責任を持ってそれを処分なり、対応をするということで、現経営予定者にそこまでの責任が移るものではないというふうにしております。

岡部委員　先ほど、各スキー場ともに今までの実績の中で、赤字の部分、補助金の額とか算定はどのように決めて、どのくらいというのは試算されているのでしょうか。

青木商工観光課長　方向的には今までの考え方と何ら変わるものはなく、経営に対する支援はできませんと言っていたのは、決算審査特別委員会、産業建設委員会、それは終始一貫しておりましたので、経営に対しては支援はしない、できないということです。臨時会の開催が可能であれば、青少年の健全育成、冬期間のスポーツ振興という名目で商工観光課サイドではなく、教育委員会部門でリフト券購入に対して、補助を提案する準備を整えているところです。

大平市長　赤字補填ではありません。子どもたちへのリフト補助など、そういう部分での話であって、営業の部分ではないことは、そこは一緒にしていただきたくはないことであります。

岡部委員　それぞれ、5つのスキー場に対して、教育委員会としての教育の視点としてということ考えているのでしょうか。

大平市長　そういうことです。

佐藤（敏）委員　指定管理から民営化に移行するにあたって、先ほど、市長が言われたように、赤字補填をしないということですが、別の観点で補助をしていく。その一つが教育の振興だということだと思っておりますが、民間に移行するにあたって、貸与分のオーバーホール等をやって、ある程度心配のないようにしていくということだったのですが、先ほど、

青木課長の話では、見通しが立たなかったから今までできなかったけれども、25年の予算の中で、オーバーホールについては赤字補填ではなくて、やるんですということの確認ですがよろしいでしょうか。

青木商工観光課長 25年度予算については、既に予算議決をいただいているところで、ただ、執行に当たって、相手の意志が確認できないままの執行は、執行部側として許されることではないということで期間が遅れました。完全に全部執行できるかどうかということはありませんが、考え方は今までと何ら変わるものではありません。

佐藤（敏）委員 ぜひ、そういう方向で願いたいと思いますが、ただ、金額が大きくなると思うので、お金をかけたら、それがだめになったということのないように、精査をしながら、相談をしながら話を進めていただきたいと思います。補助制度の関係ですが、それが、大体どのくらいなのか、それは、市内の子どもだけなのか、観光という観点から足立区や市外の子どもたちに対してはどうなのでしょう。

大平市長 この部分については、子どもたちのスキー支援ということですが、実際につくりあげていません。提案できるように、今作業を進めているところです。内容としては不十分です。ただ一つ、考えられることは、市内の子どもたちに限るということで考えさせていただきたいと思います。

佐藤（敏）委員 今の話はわかりました。市内の子どもは当然なのですが、できれば、スキー場は魚沼市の宝、観光の資源という観点から一つ付け加えて、足立区なり、友好都市にもそういった制度を広げて、魚沼市が観光立国で生きていくためにも、是非検討加えていただきたいと思います、提案させていただきます。

大平市長 今のお話は理解できますが、教育というところと、市外から来られる観光や野外授業で来る子どもたち、同じ子どもでもあります、内容は全く別ですので、また、別の分野で考えさせていただきたいと思います。

佐藤（敏）委員 それで十分ですので、教育の観点からも出す、また、魚沼市の観光という観点でスキー場を支援していくという形で是非、検討をお願いしたいと思います。

森山委員 教育の立場で補助をするという場合に、市内の学校に対しては補助をするという話でしたが、市営のときは、減免の措置だったと思うのです。それが100%なくなって市が代わりに負担して、スキー場の経営者としては学校の子どもの来ても基本的には収入的にはマイナスにならないという考え方でいいのでしょうか。

本田委員長 しばらくの間休憩いたします。

休 憩（16：50）

休憩中に懇談的に意見交換

再 開（16：51）

本田委員長 休憩を解き会議を再開します。

大平市長 それぞれ、スキー場も民営化になれば、子どもたちに対してリフト券を安くするとか、そういったことは、もうそれぞれの経営者が考えることになります。私たちは、た

だ、魚沼市の子どもたちに補助をするという考え方であって、経営の部分ではやり方はそれぞれのスキー場が考えればいいことだと思います。民営化になるということはそういうことだと思います。

森山委員 魚沼市の学校の子どもたちを受け入れたら収入が減るということはないということを確認させてください。

本田委員長 しばらくの間休憩いたします。

休 憩 (16:52)

休憩中に懇談的に意見交換

再 開 (16:55)

本田委員長 休憩を解き会議を再開します。

大平市長 子どもたちが購入するリフト券というのは、スキー授業以外の話です。スキー授業でスキー場を利用するときは、それは市の負担でやるわけです。私たちがリフト券の補助をするというのは、例えば、年間のシーズン券等に補助する、そういうことです。これから、私たちはリフト券の販売はしません。

富永委員 スキー授業の方は今までどおり市が助成するということですが、リフト券の購入に対しても補助をしていくということですが、そこで確認ですが、今の市内の小学校、中学校でのスキー授業の回数が非常に少ないと思っていますが、そのところを、市内の子どもたちがスキー場をたくさん利用して、スキーが好きになって、地域が好きになるということがいい方向だと思うのですが、そうしたときに、授業が少なすぎる気がするの、その部分はいかがでしょうか。

大平市長 スキー授業については、学校側が決めております。学校によって異なります。小出中学校は一、二年生だけで3年生はやらないというように、1年生は、シーズン2回とか3回のスキー授業の回数ですので、なかなか子どもたちがスキーに親しむというところまでいっていないのは現実です。これは、学校側は授業時間が足りない問題でもあると思いますので、学校と相談した中で進めていかないとならないと思います。

富永委員 学校の問題ということではなくて、市の方からも学校に話をして、スキー授業をもう少し増やすことはできないか、スキーに親しむことができないかというようなことを言うことはできないのでしょうか。

大平市長 相談をすることはできます。ただ、今まで、広神中学校は、クロカンを中心にやってアルペンスキーの授業はない学校もありましたので、そういうところもありますので、統一してアルペンスキーの推進するというのは難しいとは思いますが相談をかけることはできます。

富永委員 11月1日から民営化をするということですが、先ほどの説明の中で、10月2日に説明会をされたということですが、そのときの説明会の中で、各スキー場を運営しようとする法人の皆さんから何年間以上は自分たちが頑張って経営するんだという意志確認はあったのでしょうか。

青木商工観光課長 1年では困るという話をさせていただきました。精一杯頑張るというお話をいただいて、その場で判断できないところもありましたし、民営化を受けるのは既成の事実で春から確認した中できょうの説明会に来たというスキー場もありました。

富永委員 そうすると、自分たちが責任を持って経営していくという年数というのは、民営化に関する条件の中に入っていないということですか。

青木商工観光課長 何年間という条件は入ってません。

佐藤（敏）委員 12日にグローバル時代の地域社会という題で木村太郎さんの話を聞いてきました。そのときの話では、雪が宝だという話がありました。今世界で、韓国、中国でも若干降りますが、雪が見られるところは日本だけ。これからは、それが財産で宝であると。魚沼市、これから、観光、一番大事だと思いますし、もう一つは、雇用です。水の郷も頑張っているけれどもなかなか雇用につながらない。今、スキー関連で60人を雇用し、プラスアルバイト、そのほかに民宿があったり、酒屋があり、雇用プラス消費で動いているのが、これがだめになったというと非常に魚沼市に影響が大きくなってきます。できれば、これをさらに活性化をして、観光と結びつけて、宝である雪を生かしていくという観点からすれば、子どもの教育もそうですが、逆に、観光という観点から魚沼市が民営化したスキー場と一緒にあって、リフト券を売っていく、都会でイベントをして集客をしていく、ぜひ、積極的に商工観光課の方でも、民営の担当者と力を合わせて地域が発展して喜ばれる、また、宝を持ち腐れにしないような対応を望みますが担当課長の意気込みをお聞かせください。

青木商工観光課長 おっしゃるとおり、雪は宝だと思っております。同時に、宝を守っていくのも至難の業だと思っております。ただ、市の施設を民間がやるということになると、市と民という関係になりますので、1企業との対応という一定のルールの中でということをおきながら、委員おっしゃる支援活動はしていかなければならないと考えております。

岡部委員 今後のスケジュールですが、12月の半ば過ぎになればスキー場をオープンするのですが、それぞれ契約して、今年は予定どおり、営業を開始できるのでしょうか。

青木商工観光課長 今現在、予定者と仮契約を結んではいません。仮契約を早急に結んで、その仮契約をもって、陸運局の届け出手続きを進めたいと思います。クリスマス頃のオープンに間に合わせるべく日程を考えております。

森山委員 普通財産になったときは、管理はどちらでやるのでしょうか。

青木商工観光課長 普通財産ということで今回議決が得られるならば、民間がそれを使って経営しますが、所有権はあくまでも市です。

森山委員 市の財産、行政財産から普通財産へ変更するわけですが、その維持管理費は今までどおり商工観光課で出すのでしょうか。

青木商工観光課長 維持管理の部分については、民でお願いしたいということですが、大規模修繕はできないがために不足の事態が発生することのないように、市の財産管理、普通財産とはいえ市の財産という中での目配せ、それから、大規模修繕にかかる補助は考えていかなければならないと思っています。

森山委員 引き続き、商工観光課なのか、財務なのか、それはどう考えているのでしょうか。

本田委員長 しばらくの間休憩いたします。

休 憩 (17:08)

休憩中に懇談的に意見交換

再 開 (17:09)

本田委員長 休憩を解き会議を再開します。

大平市長 今後、何款で支出するかは検討させていただきますが、どちらにしても市の方での対応になろうかと思えます。例えば、自然災害などの不可抗力的なものに対しては、国からの補助金もあることもありますので、それは、全て市の方で対応することになります。

本田委員長 ほかに質疑はありませんか。ただ今報告を受けました民営化の件については、今月中に臨時会の議案として調整の上、提出されるとのことです。当委員会としては、今後の課題もありますので、経過を見守りながら調査をしていくこととし、本日のところは以上とすることで異議ありませんか。(異議なし) それでは以上といたします。

(4) その他

本田委員長 日程第4、その他を議題とします。星野農政室長に資料の説明を求めます。

星野農政室長 10月9日の日本農業新聞に載りました、地域ブランド調査の結果について報告させていただきます。(資料「日本農業新聞記事」について説明)

佐藤(敏)委員 すばらしいことだと思いますので、広報などで広くPRしてよりました、上位にあがるように一緒に頑張ってくださいと思います。

星野農政室長 市民の皆様にもお知らせしたいと思います。

本田委員長 ほかにありませんか。(なし) それではこれで本日の産業建設委員会を閉じたいと思います。会議録については委員長に一任願います。それでは、本日の産業建設委員会は閉会いたします。

閉 会 (17:13)